

防 災のススメ

—生き残るための備えを—

近年、全国で大きな災害が頻発するようになっています。
防災の知識を深め、日ごろからしっかりと備えて、適切な行動ができるようにしましょう。

■問い合わせ 生活安全課 ☎ 64・6006



昭和 28 年台風 13 号で発生した豪雨災害(湯岡橋)

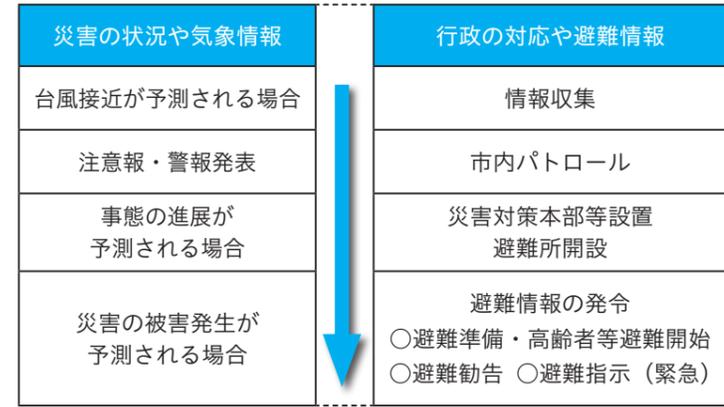
【5段階警戒レベルと避難情報等】

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	すでに災害が発生している状況です 命を守るための最善の行動をとりましょう	災害発生情報 (市が発令)
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難所へ避難しましょう。移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、宅内のより安全な場所に避難しましょう	避難勧告、避難指示(緊急) (市が発令)
警戒レベル3 高齢者等は避難	高齢者など避難に時間を要する人と、その支援者は避難を開始し、それ以外の人は避難の準備を整えましょう	避難準備・高齢者等避難開始 (市が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう	大雨、洪水注意報 (気象庁が発表)
警戒レベル1	最新の気象情報に注意するなど災害への心構えを高めましょう	警報級の可能性 (気象庁が発表)

今夏から、この運用が開始され、
今後は、「警戒レベル4、避難勧告を
発令しました」といったように、5
段階の警戒レベルと3種類の避難情
報を組み合わせて発信します。
自分や家族を守るため、各レベルと

台風接近時の市の対応

市では、台風の接近が予測される
場合、基本的に次のような流れで対
応しています。



気象状況などに応じて対応するた
め、必ず右図のとおりになるとは限
りません。まだ穏やかな時間帯でも、
早めの対応を行う場合がありますの
で、気象情報や避難情報などに注意
しておきましょう。

避難行動、避難情報などの関係を知
り、適時適切な避難を行いましょ

自助—自分の身は自分で守る—

大規模な災害においては、公的機
関の助け「公助」が行き届かなくな
る場合があります。

そこで重要になるのが「自助」です。
他者を助けるためにも、まず自分
命を守る方策を身に付けましょ

災害を知る

災害は、次の2つに分類すること
ができます。

- 一、地震など、発生を予測するこ
とができない災害
- 二、大雨など、事前にある程度発
生が予測できる災害

地震のように、発生を予測するこ
とができない災害は事前の備えが重
要になります。一方で、事前にある
程度発生が予測できる大雨などの災
害は、日ごろの備えはもちろん、早
めの避難行動が重要になります。

避難所

市が指定している避難所は、現在
35カ所あり、気象状況に応じて開設
する避難所を決定します。

夜間に暴風雨となる予報の場合は、
明るい時間帯に開設し、早めの避難
に備えることとしています。

※飲料水や食料品など、備蓄物資
には限りがあります。避難する際
は、できるだけ持参してください

情報の発信

避難所の開設や避難情報などの情
報は、各家庭の防災行政無線や屋外
スピーカー、チャンネルOによる放
送のほか、小浜市防災メールや市公
式ホームページ、フェイスブック、
ツイッターなどでも発信しています
(P4参照)。

3種類の避難情報

「気象情報」や「河川の水位」など
を基に発令する避難情報には、緊急
性にに応じて次の3種類があります。

事前に備える

災害から身を守るためには、非常
時の持ち出し品や備蓄品などの「モ
ノの準備」と、情報収集や危険箇所
の確認、適切な避難行動などの「ヒ
トの準備」の両面から備えることが
必要です。

モノの準備

【非常時持ち出し品】

左図のような物品をリュックにま
とめ、すぐに持ち出せる場所に置いて
おきましょう。ポイントは、①両手が
ふさがらないようにすること、②必要
最小限の荷物にすることの2点です。



〈行政が発令する避難情報〉

【避難準備・高齢者等避難開始】
避難に時間を要する人(高齢者、障がいのある人、乳幼児等)や身の危険を感じる人は避難を開始してください
その他の人は、いつでも避難できるように準備をしてください

【避難勧告】
災害の危険が高まっています指定避難所や近くの安全な場所へ避難を開始してください

【避難指示(緊急)】
この時点で避難していない人は、直ちに避難してください外出することでかえって危険がある場合には、建物内のより安全な場所に避難してください

5段階の警戒レベル

国では、過去の災害を踏まえ、住民などが情報の意味を直感的に理解できるようにするため、防災情報を5段階の警戒レベルで示すことを決定しました(次ページ図参照)。

【備蓄品】

災害の長期化や自宅避難に備え、目安として、1週間分くらいの水や食料、また加熱するためのカセットコンロや電源を使わない暖房器具を備えておきましょう。

【ローリングストック法】

食料の備蓄法として、普段家庭で使用している食品を「消費」と「補充」のサイクルで備蓄する、ローリングストック法と呼ばれる方法があります。防災用の長期間保存できる食品でなくても、普段買っているもので十分備蓄することができます。



情報収集

災害から身を守るためには、情報収集により気象や災害の状況を把握し、判断する必要があります。

- ① 1つの手段に頼らず、複数の手段で手に入れること
② 情報は待っていても手に入らないため、自分から取りに行くこと
の2つのポイントです。

【テレビ・ラジオ・インターネット】

天気予報や台風情報などを確認して、避難行動の参考にしましょう。インターネットでは、河川の水位や雨量を確認することができます。

インターネットサイト

- 福井県地方気象台
http://www.jma-net.go.jp/fukui/
小浜市公式ホームページ
http://www1.city.obama.fukui.jp/
福井県河川・砂防総合情報
http://ame.pref.fukui.jp/

【防災行政無線】

市から避難情報や避難所の開設状況などが放送されます。普段から戸別受信機がしっかり受信しているかを確認しておきましょう。

【防災メール】

登録制のメールサービスとして、市が配信する「小浜市防災メール」、県が気象情報や河川の水位などを配信する「i-ame（アイアム）メール」などがあります。無料で利用できますので、ぜひ活用してください。

メール配信の登録はこちら

小浜市防災メール(市配信)

https://mail.cous.jp/bousaiobama/

i-ame メール (県配信)

http://i-ame.ame.pref.fukui.lg.jp/

市公式 SNS

フェイスブック

https://www.facebook.com/city.obama/

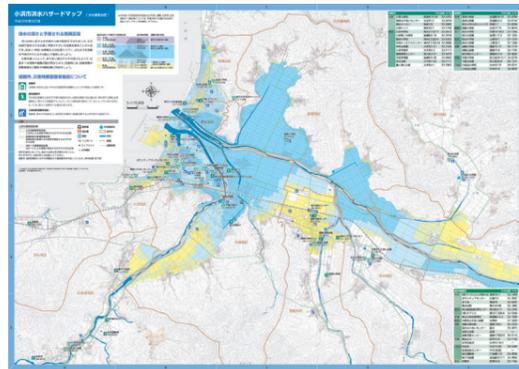
ツイッター

https://twitter.com/obama_city

危険箇所の把握

市では、洪水、土砂災害、津波、揺れやすさ（地震）などのハザードマップを作成しています。住んでいる場所の近くにはどういった危険があるのかを、事前にハザードマップで確認して、把握しておきましょう。

【小浜市洪水ハザードマップ】



【浸水深の把握】

危険箇所の一例として、洪水ハザードマップによる浸水深の把握があります。浸水深が0.5m以上2m未満の区域では、1階部分が浸水するため、避難所などへ避難するほか、2階以上に避難する必要があります（垂直避難）。

【正常性バイアス（正常化の偏見）】

避難しない理由に、防災用語が分かりにくく、意味が理解されていなかったことや、人間の持つ心理的要因があったことが考えられます。

それが、「正常性バイアス」と呼ばれる、危険に直面している特異な状況でも、日常生活の延長上の出来事として捉えてしまう心理的な傾向です。

この傾向により、危険が迫り、避難情報などが発令されていても、大丈夫であると楽観視してしまい、避難行動が妨げられてしまいます。

では、どうすれば正常性バイアスから抜け出せるのでしょうか。

【災害の恐ろしさを知る】

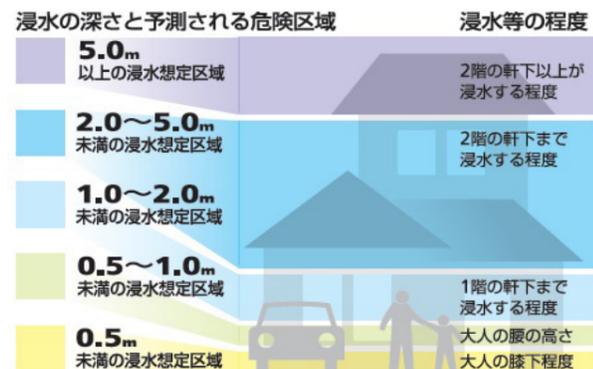
本当に災害が発生するとどのようなことが起きるのか、過去の事例などから知ることが大切です。災害はひとごとではなく、自分の身にいつ降りかかってもおかしくないという危機感を持つようにしましょう。

【地域ぐるみで避難】

避難行動を促す上で、声を掛け合っ て避難するということが有効とされています。人間の心理として、近隣の人が避難を始めると、自分も避難

浸水深が2mを超える区域については、避難所か3階以上の建物などへ避難する必要があります。事前に把握した浸水深に基づき、いざというときの避難行動を考え ておきましょう。

【浸水深と建物の関係図】



浸水深

洪水や内水氾濫によって、市街地や家屋、田畑が水で覆われることを浸水といい、その深さ（浸水域の地面から水面までの高さ）のことを浸水深といいます

しなければと考えます。このように、集団の行動に従おうとする心理を「同調性バイアス」といいます。

実際に町内会で声を掛け合い避難したことで、全員が難を逃れられたという例があり、同調性バイアスがうまく働いた事例と言えます。

一方で、周りが避難をしなければ、避難しようと考えていた人も行動に移さなくなってしまうこともありま す。そういったことが起きないように、誰もが率先して避難することが大切です。

まとめ

防災において重要なことは、自分の命は自分で守るということです。そのためには、

- ① 防災の知識を蓄える
② 事前に準備しておく
③ 適切に判断し、行動する

この3つが必要です。できることから継続的に実践していきましょう。

そして、いつ大きな災害に直面しても自分や家族の命を守るため、災害への危機意識を高め、防災力を身に付けていきましょう。



平成 25 年台風 18 号の被害

野木川堤防決壊 (若狭町)

土砂災害 (忠野)

飛川橋流失 (下中井)



平成 25 年台風 18 号の冠水被害 (水取一丁目)

適切な避難行動

【生かされない避難情報】

平成 30 年 7 月豪雨で問題となったのが、避難情報が発令されていたにも関わらず、避難をしなかったために、被害が大きくなったことです。なぜ避難しなかったのでしょうか。

【冠水後の危険箇所】

左の写真のように、道路が冠水すると段差や側溝などが見えなくなり、避難する上で大変危険です。降雨や夜の暗闇などの悪条件がさらに重なれば、より一層の危険が伴います。普段から危険箇所を把握しておきましょう。また、そうなる前に早めの避難を心掛けましょう。